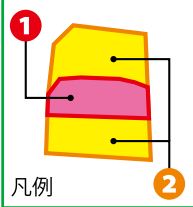


6. 土砂災害ハザードマップ

6-1 土砂災害ハザードマップについて

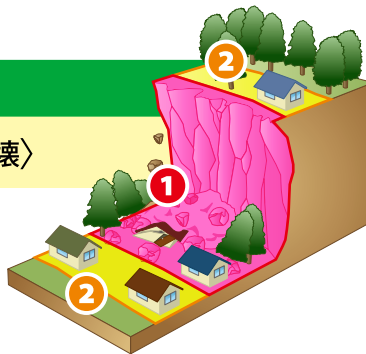
土砂災害(特別)警戒区域



がけ崩れ〈急傾斜地の崩壊〉

①土砂災害特別警戒区域

②土砂災害警戒区域



がけ崩れ〈急傾斜地の崩壊〉とはこんな現象のことをいいます

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

▶土砂災害特別警戒区域とは

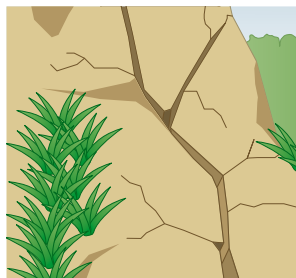
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、住宅等の新規立地の抑制等を目的として都道府県が指定します。

▶土砂災害警戒区域とは

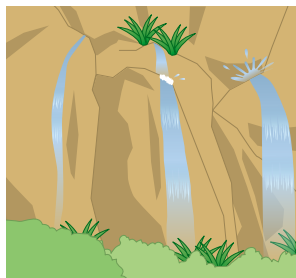
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域で、危険の周知、警戒避難体制の整備を図ることを目的として都道府県が指定します。

こんな前兆現象に要注意!

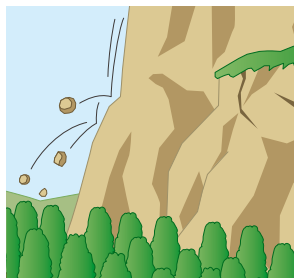
土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を確認したら速やかに避難するとともに、市役所・消防にご連絡ください。



斜面にひび割れができる。



わき水の量が増える。

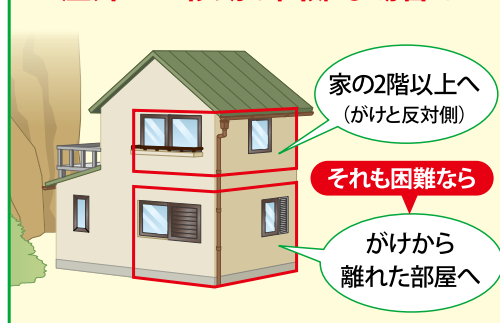


がけに亀裂が入ったり小石が落ちてる。

●土砂災害時の屋内避難

土砂災害による被害の多くは木造建物の1階で被災しています。災害では早めの避難が重要ですが、どうしても指定緊急避難場所への移動が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋の2階など)に避難しましょう。

逃げ遅れるなどして 屋外への移動が困難な場合は…



土砂災害の危険性がある場合は、早めの立退き避難を行ってください。

●避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



状況により、すばやく 避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。



浸水時、自動車での 避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。



浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。



家族には 連絡メモを残そう

外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。



防災メモを持とう

高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



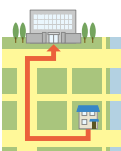
集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



安全なルートで避難

指定緊急避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。